

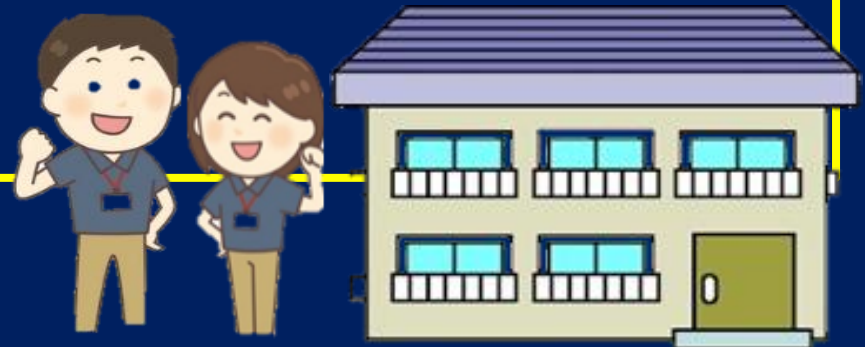
多機関連携による精神障がい者支援事業の コロナ禍における展開とその効果 ～ピアサポーターのリカバリーストーリー集の 作成と活用を通して～

- 山崎未紗(延岡保健所)、塩田瑞月(県長寿介護課)、
岡田菜々夏(県障がい福祉課)、阿南裕子(日向保健所)、
戸高由佳里(高鍋保健所)、救仁郷修(元延岡保健所)、
椎葉茂樹(延岡保健所)

はじめに

R2～4年度 延岡地域では、
多機関連携による精神障がい者支援事業
(厚労省モデル事業)に取り組んだ。

精神科病院とグループホームにコーディネーターを置き
○ピアサポーターの協力を得ながら地域移行を進める
○精神障がい者が住み慣れた地域で安心して生活が
送れるよう支援する



ピアサポーターとは？

障がいのある人自身が、自分の経験をもとに、同じような悩みで困っている方を支える活動を行う人



退院・退所への**意欲喚起**においては、**ピアサポーター**との交流が果たす役割は大きい。

しかし、コロナ禍で直接交流が難しい状況。



ピアサポーターの
体験を紙面にまとめた

「**リカバリーストーリー集**」を作成・活用し
その効果について検討

リカバリーとは？

人々が生活や仕事、学ぶこと、そして地域社会に参加できるようになる過程

精神障害をもつ人の
主観的な回復の経験



対象と方法

(1)リカバリー集の作成とリカバリー要因の分析

○ピアサポーター7名へのインタビュー

入院中の思い
退院のきっかけ
現在の地域生活 等



○インタビュー内容を整理し、リカバリー集を作成

○各自がリカバリーに繋がった要因に関する キーワードを抽出し、カテゴリ化

(2)リカバリー集の配布と効果の検討

○A精神科病院の入院患者と職員(看護師)へ
リカバリー集を配付

○読了後に自記式アンケート調査実施

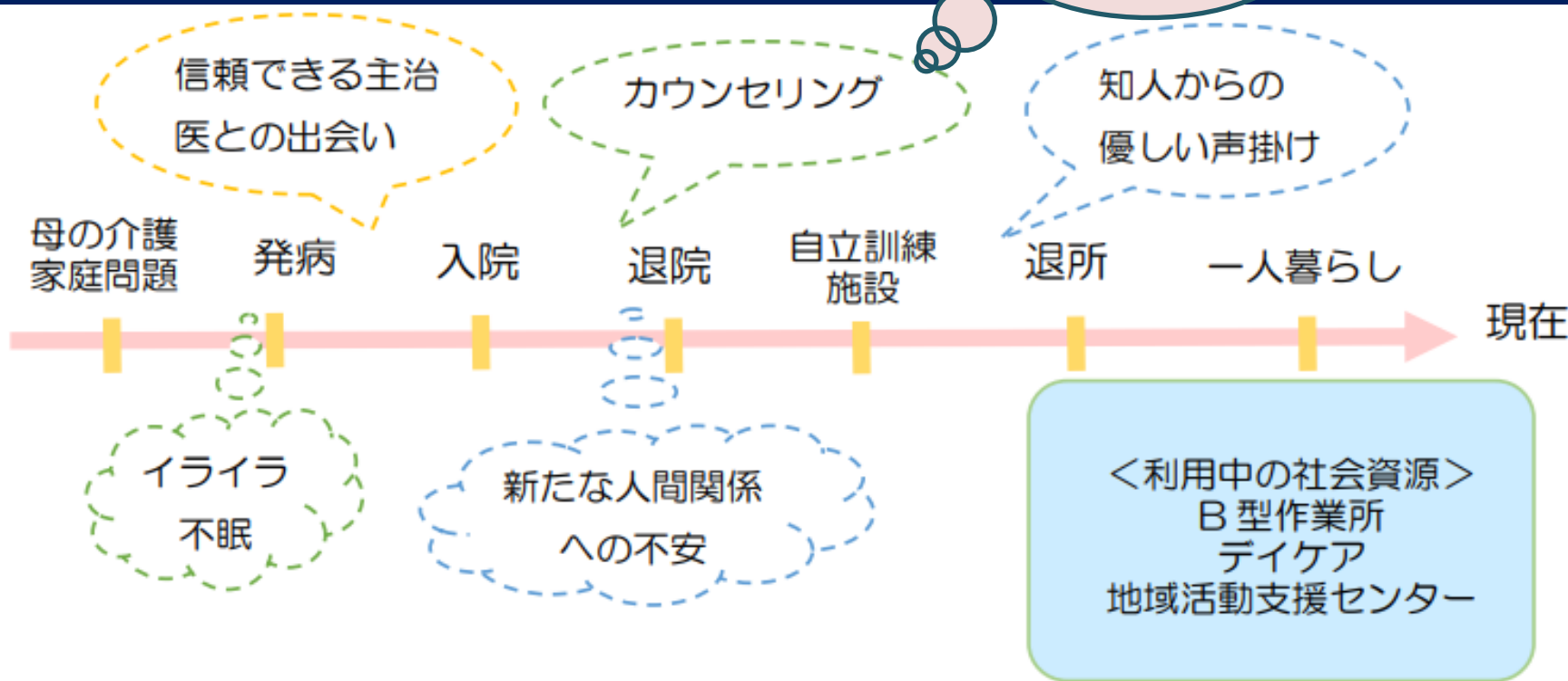


結果

(1)リカバリー集の作成とリカバリーに繋がった 要因の分析結果

リカバリーの
過程を図に

日々の小さな



エピソードをキーワード
ごとにまとめた

<自立訓練施設か？>

❁ 自立訓練施設

きっかけや思いを
知ることができる

た。自立訓練施設は、行っ
A病院には自立訓練施
が変わりました。施設ス
案されたことをきっかけに、

様々な経験

多様な暮らしの形
がある

んでしまわないように心配。あの
護をよく頑張っていたと思うよ」
ありがたかったのを覚えています。



社会資源を活用

一集の一例

<今の暮らし>

地域生活の様子

❁ 楽しみなこと

現在も、B病院に通院しながら生活しています。私は雑貨が好きなので、ハロウィンやクリスマスといった季節物を自宅に飾り付けるのも楽しみの一つです。日々、楽しみをちよつとずつ作っています。

❁ お薬のこと

1日に4回薬を飲むのですが、毎朝1日分の薬をポーチに入れるのが習慣で、飲み忘れることはありません。

❁ 食事のこと

食事は、近所のスーパーで食材を買って料理したり、惣菜を買ったりしています。各スーパーの安売り日を把握しているので、自転車でもどこまでも買いに行きます。



(1)リカバリー集の作成とリカバリーに繋がった 要因の分析結果

リカバリーに繋がった要因：8つのカテゴリーに分類

精神科医療機関に
おける支援

病状の安定

家族や知人の支え

障がいを受け入れて自
分らしく日々を楽しむこと

人との関わり

自分の役割の築き

周囲へサポートを
求められること

社会資源の活用



(2)リカバリー集の配付と読了後のアンケート結果

配付対象

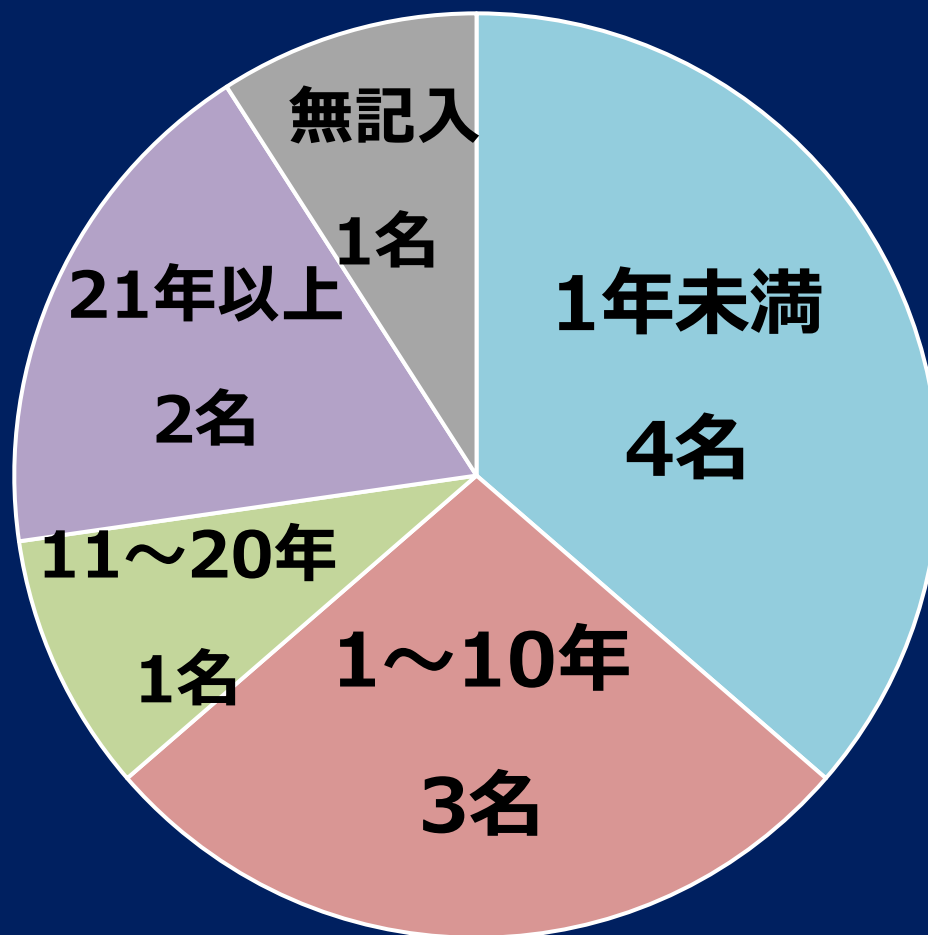
①A病院入院の入院患者のうち病棟職員が「退院意欲が喚起できると良い」と考えた入院患者11名

②その患者を主に担当する職員16名



アンケート結果：入院患者

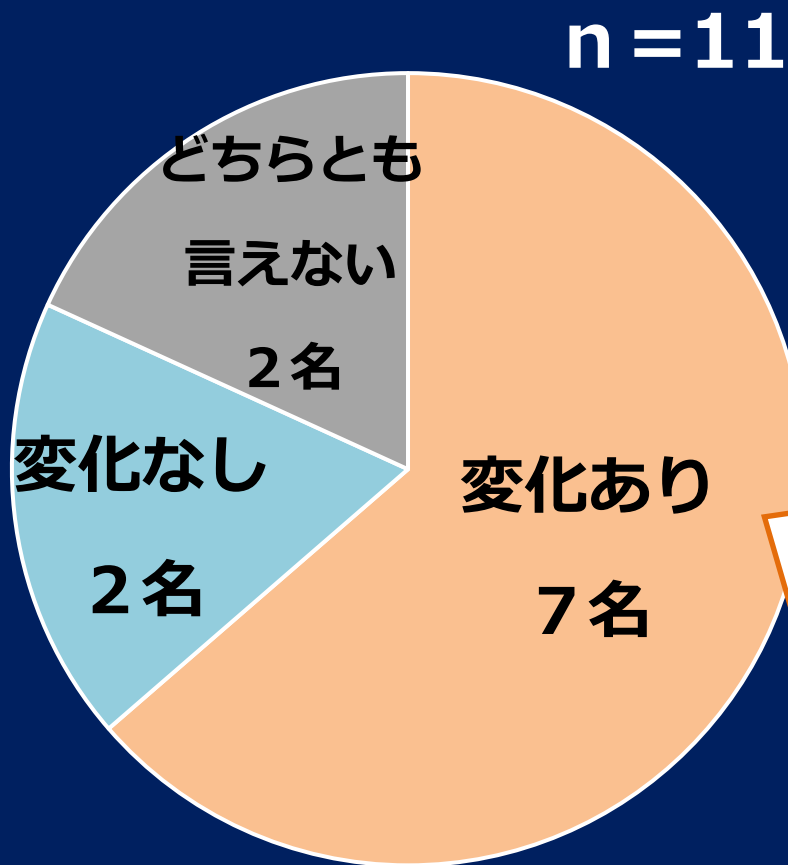
入院期間



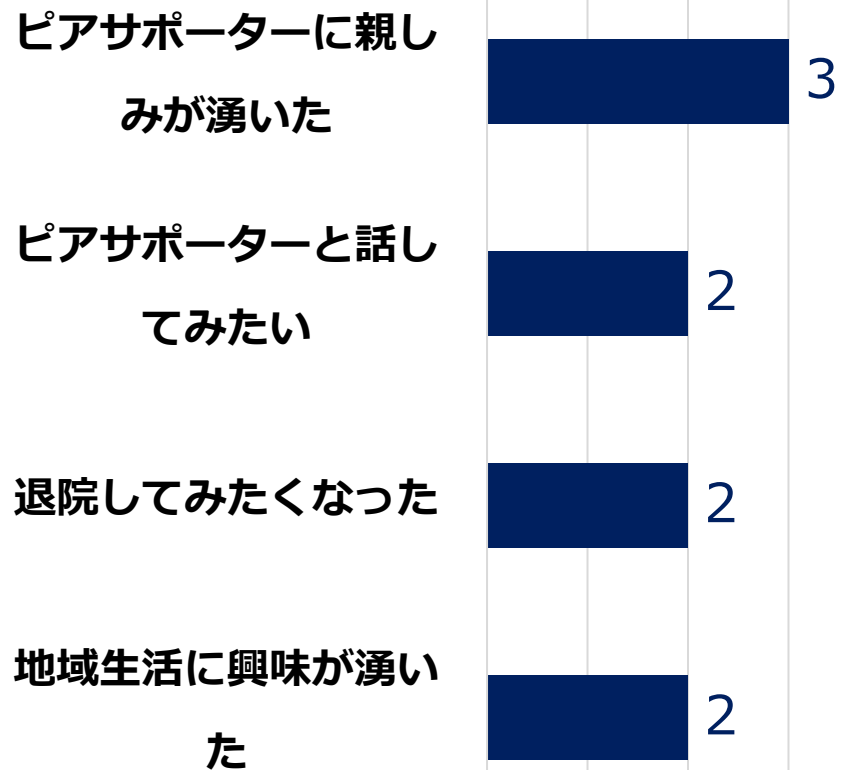
n = 11

入院患者

読了後の気持ちの変化の有無と理由



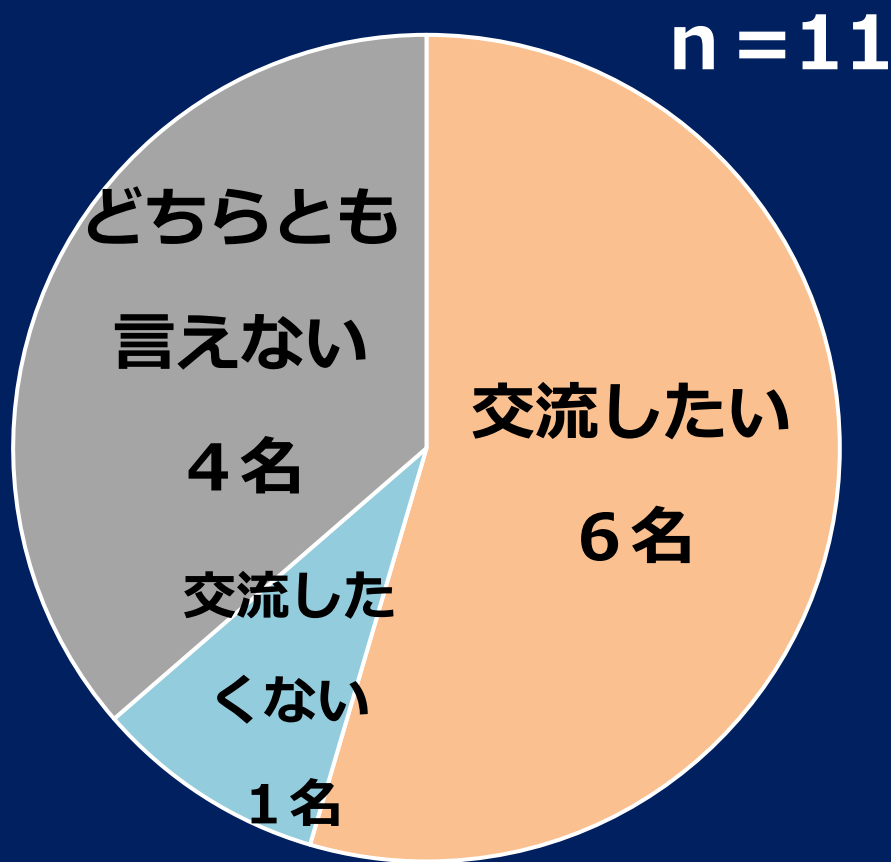
【気持ちの変化ありの理由】



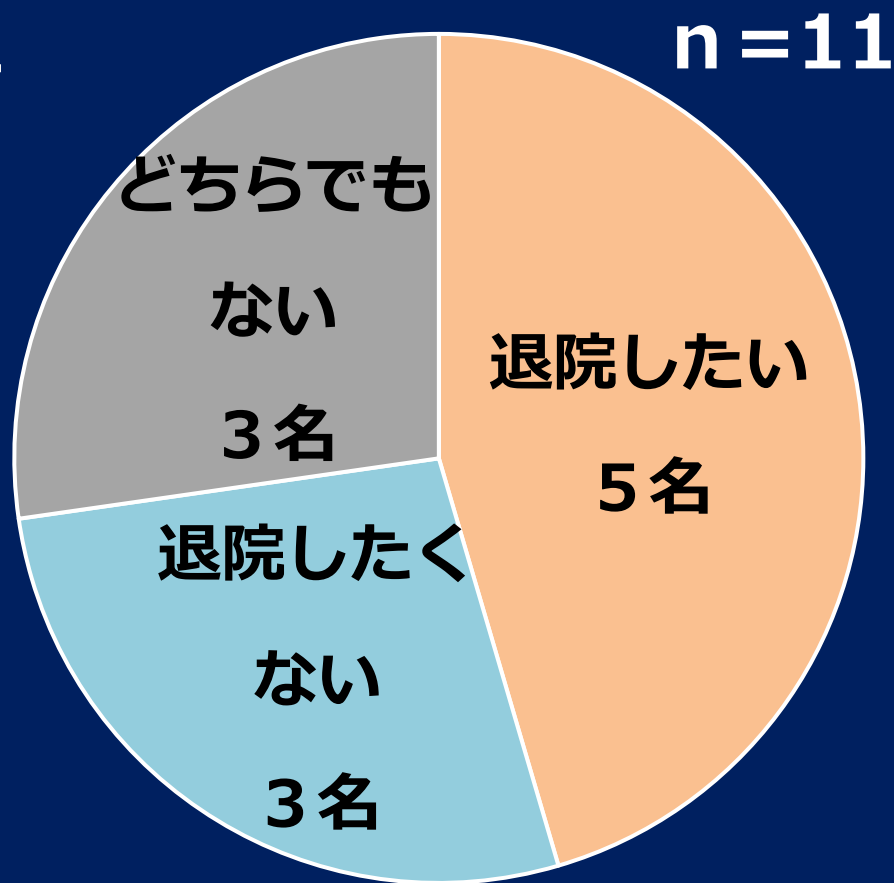
(複数回答)

入院患者

ピアサポーターとの 交流希望の有無



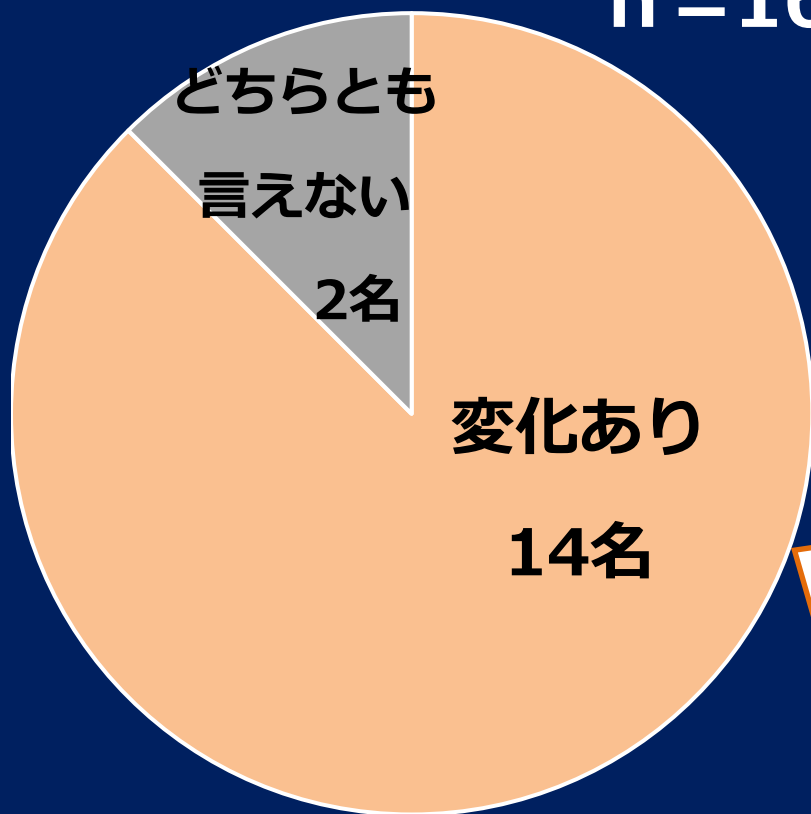
退院希望の有無



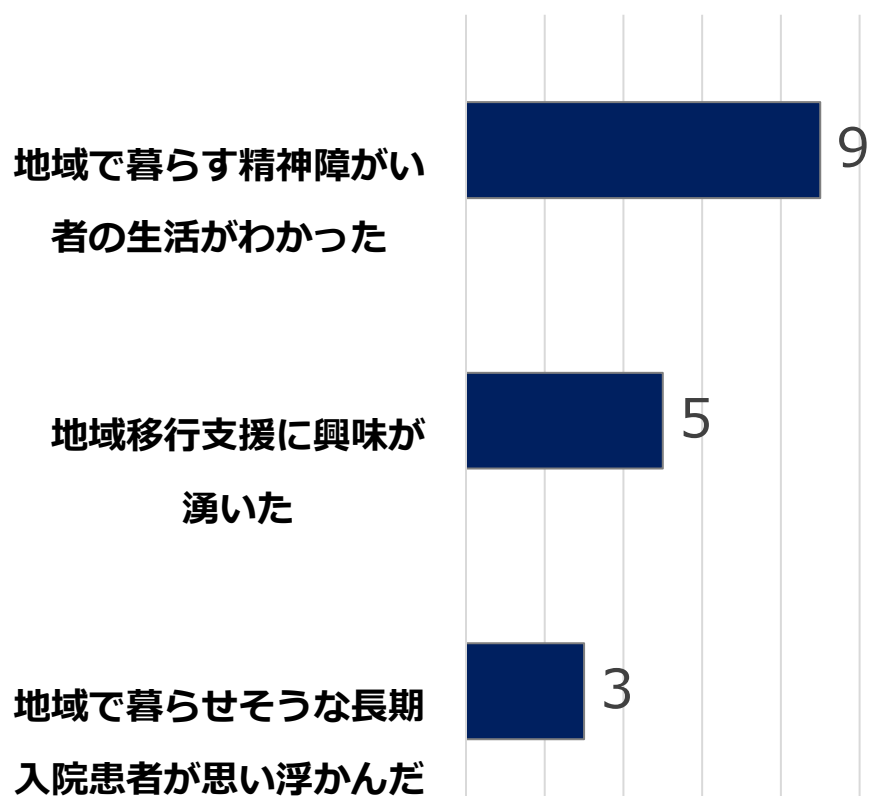
職員

読了後の気持ちの変化の有無と理由

n = 16



【気持ちの変化ありの理由】

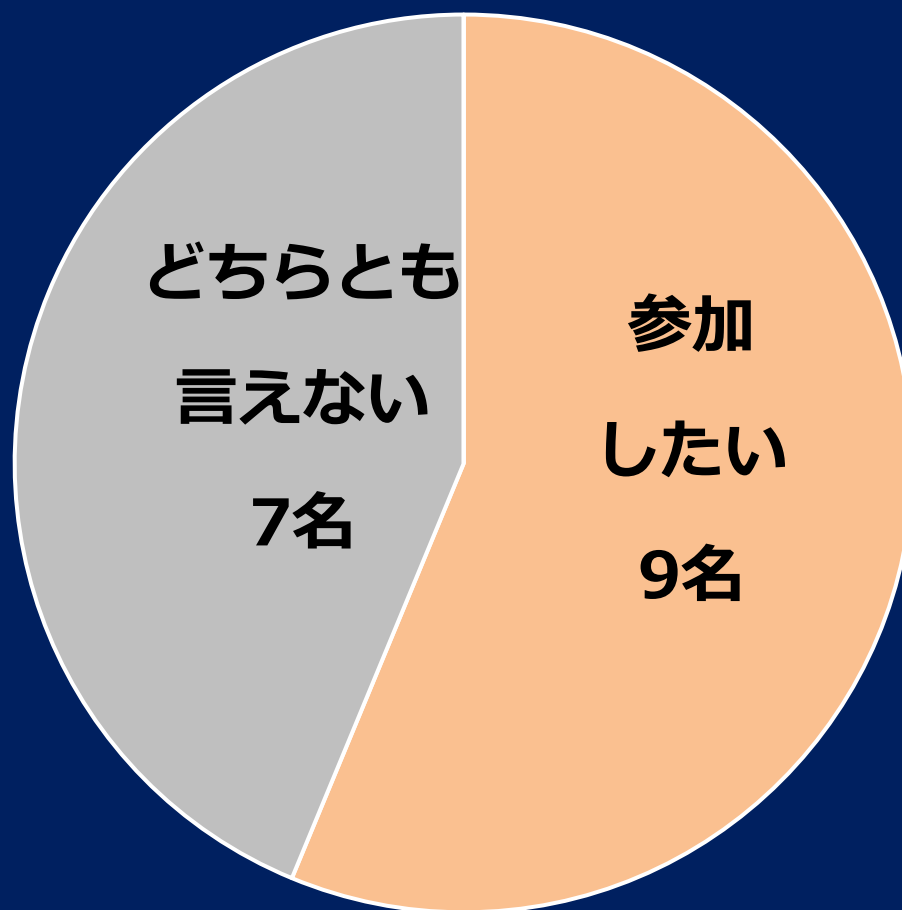


(複数回答)

職員

今後の地域移行支援への 参加希望の有無

n = 16



考察

考察①

～作成・要因分析による効果～

インタビューの実施、リカバリー集の作成を通して



○各自の経験や思いが目に見える形となった。

○リカバリーに繋がった要因

周囲の支援と共に、本人の障がい受容や

役割の築きも重要であることが明らかになった。

考察②

～入院患者への効果～

入院患者11名のうち7名に気持ちの変化あり

→その後、11名のうち4名はその後**退院**に至った。



当事者同士の体験的知識と感情風景の共有は
リカバリーの促進因子となる



○ピアサポーターの苦難や乗り越え方、日頃の生活で
感じている楽しさ等を知る機会が、地域生活を身近な
ものとし、退院意欲を喚起する一助となった。

考察③

～病院職員への効果～

職員16名のうち14名に
気持ちの変化あり



地域移行支援への
参加希望には7名が
「どちらとも言えない」
と回答



○リカバリー集が、**職員の気持ちの変化**にも影響を与えることは示唆。

○「地域移行支援に携わりたい」という認識を得るためには、どのようなアプローチが必要となるのか。

⇒さらなる**課題の分析と方法の検討**が必要。

考察④

～コロナ禍での工夫～

新型コロナウイルス感染症の影響により
直接の交流ができない状況において



媒体の一つとしてリカバリー集を用いることで
入院患者とピアサポーターとの繋がりが継続



本媒体を活用しながら、直接交流する機会に
についても再開していきたい。

おわりに

精神障がい者が安心して生活を送るためには？

- ・地域全体の正しい理解と支援体制が不可欠。
- ・各種会議や研修会等において、ピアサポーターが自らの体験について話す場を設けるとともに本媒体を活用していきたい。



ご清聴ありがとうございました

